

2026年6月12日

2025年度 期末連結決算 国際線旅客増や万博効果などが牽引し増収増益

関西エアポート株式会社は、2025年4月から2026年3月までの第11期会計年度連結決算において、営業収益は2,713億円、営業利益は696億円、経常利益は589億円、当期純利益*は402億円を計上しました。

当期は、中国の渡航自粛要請の影響があったものの、インバウンドを中心に国際線航空需要が増加したことや万博効果などにより、前年度と比較すると、営業収益は11%の増加、営業利益は8%の増加、経常利益は9%の増加、当期純利益は9%の増加となり、過去最高益となりました。

(連結損益計算書)

(単位：億円)

	2024.4-2025.3	2025.4-2026.3	増減	%
営業収益	2,454	2,713	259	+11%
外部費用	(1,362)	(1,553)	(191)	+14%
EBITDA	1,092	1,160	68	+6%
減価償却費	(446)	(464)	(18)	+4%
営業利益	646	696	50	+8%
経常利益	540	589	49	+9%
当期純利益*	368	402	34	+9%

* 「当期純利益」は、「当社株主に帰属する当期純利益」を記載しています。

(航空需要の状況)

3空港合わせた航空機発着回数は38.1万回（前年度比+3%）、航空旅客数は5,401万人（前年度比+6%）となりました。

国際線については、外国人旅客数が過去最高を更新しました。中国路線の供給制約があったものの、上半期を中心とした航空旅客数の増加が牽引し、国際線旅客便発着回数および国際線旅客数は、関西国際空港開港以来、年度として過去最高を記録しました。

国内線については、航空機発着回数は前年度を僅かに下回りましたが、旅客数は前年度比+2.4%と増加しました。

また、国際線チャーター便が就航した神戸空港における総旅客数は417万人となり、過去最高を記録しました。

	2024.4-2025.3	2025.4-2026.3	増減	%
航空機発着回数（万回）	36.9	38.1	1.2	+3%
関西国際空港	19.9	20.7	0.8	+4%
大阪国際空港	13.7	13.8	0.1	+1%
神戸空港	3.3	3.7	0.3	+10%
航空旅客数（万人）	5,086	5,401	315	+6%
関西国際空港	3,180	3,355	176	+6%
大阪国際空港	1,545	1,629	84	+5%
神戸空港	361	417	56	+16%

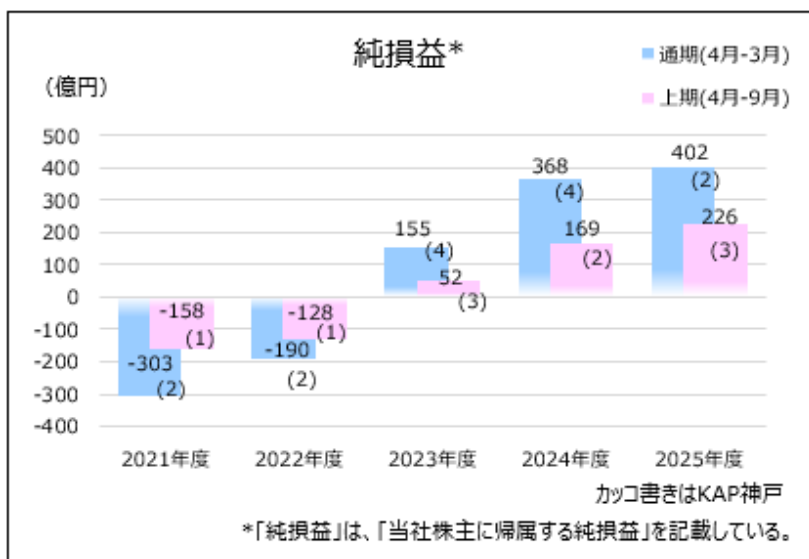
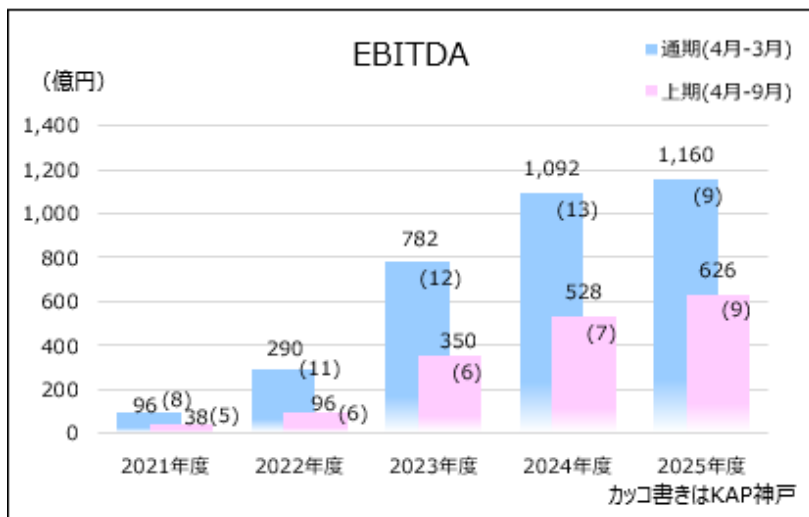
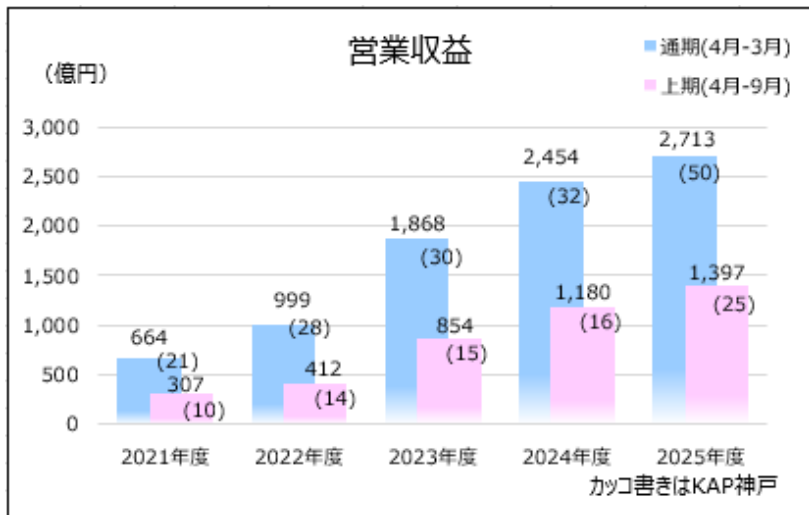
（連結貸借対照表）

2026年3月31日現在における財政状態は、前期末と比較すると公共施設等運営権が償却により減少した結果、資産合計は1兆5,707億円となりました。また、運営権対価の支払いにより、公共施設等運営権に係る負債や未払金が減少した結果、負債合計は1兆4,621億円となりました。

（単位：億円）

	2025.3.31 現在	2026.3.31 現在	増減
流動資産	1,540	1,683	143
固定資産	14,424	14,024	(399)
資産合計	15,964	15,707	(256)
流動負債	907	764	(142)
固定負債	14,252	13,857	(395)
負債合計	15,159	14,621	(538)
株主資本	769	1,045	277
その他の包括利益累計額	14	18	3
非支配株主持分	21	22	1
純資産合計	804	1,086	281
負債・純資産合計	15,964	15,707	(256)

(参考資料) 連結決算の推移



【報道関係の方からのお問い合わせ先】

関西エアポート株式会社
 グループコーポレートコミュニケーション部
 パブリックリレーションズ グループ
 Tel : 072-455-2201

連結損益計算書

〔 自 2025 年 4 月 1 日 〕
〔 至 2026 年 3 月 31 日 〕

(単位: 百万円)

営業収益		271,302
営業原価		171,080
営業総利益		100,222
販売費及び一般管理費		30,586
営業利益		69,636
営業外収益		1,325
受取利息及び配当金	614	
持分法による投資利益	293	
その他の営業外収益	417	
営業外費用		12,064
支払利息	11,927	
支払手数料	130	
その他の営業外費用	7	
経常利益		58,896
特別利益		81
固定資産売却益	0	
補助金収入	80	
特別損失		1,429
固定資産除却損	333	
固定資産売却損	0	
固定資産圧縮損	70	
更新投資に伴う撤去費用	1,025	
税金等調整前当期純利益		57,549
法人税、住民税及び事業税	10,421	
法人税等調整額	6,841	
当期純利益		40,286
非支配株主に帰属する当期純利益		100
親会社株主に帰属する当期純利益		40,186

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)

連結貸借対照表

〔2026年3月31日現在〕

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	168,291	流 動 負 債	76,440
現金及び預金	133,678	買掛金	3,950
売掛金	12,815	未払金	15,595
契約資産	338	未払費用	4,635
商 品	5,810	1年内返済予定の長期借入金	6,126
原材料及び貯蔵品	1,208	1年内支払予定の公共施設等運営権に係る負債	30,875
1年内回収予定の差入保証金	2,251	未払法人税等	10,032
未 収 金	6,996	契 約 負 債	1,884
そ の 他	5,191	賞 与 引 当 金	1,916
貸倒引当金	△ 0	ポ イ ン ト 引 当 金	54
		そ の 他	1,369
固 定 資 産	1,402,432	固 定 負 債	1,385,707
有 形 固 定 資 産	36,732	社 債	4,860
建物及び構築物	3,676	長 期 借 入 金	171,117
機械装置及び運搬具	19,345	公共施設等運営権に係る負債	1,129,803
工具器具備品	5,210	特別修繕引当金	58,063
土 地	547	退職給付に係る負債	7,528
建設仮勘定	7,877	そ の 他	14,334
そ の 他	75		
無 形 固 定 資 産	1,260,663		
公共施設等運営権	1,172,300		
更新投資に係る資産	86,084	負 債 合 計	1,462,147
そ の 他	2,278	純 資 産 の 部	
投資その他の資産	105,036	株 主 資 本	104,548
投資有価証券	1,486	資 本 金	25,000
差入保証金	81,658	資 本 剰 余 金	25,000
繰延税金資産	19,213	利 益 剰 余 金	54,548
そ の 他	2,684	その他の包括利益累計額	1,787
貸倒引当金	△ 7	繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	1,787
		非支配株主持分	2,241
		純 資 産 合 計	108,576
資 産 合 計	1,570,724	負 債 ・ 純 資 産 合 計	1,570,724

(記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。)



関西エアポート株式会社は、オリックス株式会社と VINCI Airports (ヴァンシ・エアポート) を中核とするコンソーシアムにより設立されました。関西国際空港 (KIX) および大阪国際空港 (ITAMI) の運営を新関西国際空港株式会社から引継ぎ、2016年4月1日より両空港の運営会社として事業を開始しています。

また、2018年4月1日からは関西エアポート株式会社の100%出資会社である関西エアポート神戸株式会社が、神戸空港 (KOBÉ) の運営を神戸市から引継ぎ、事業を開始しました。

“One 関西エアポートグループ”として、空港の安全とセキュリティを最優先に、適切な投資と効率的な運営によって国内外からの空港利用者へのサービスを強化してまいります。また、関西3空港の可能性を最大限に引き出し、地域コミュニティへの貢献につなげてまいります。

詳しくは、関西エアポートグループホームページ: www.kansai-airports.co.jp/ をご参照ください。

関西エアポート株式会社 (関西国際空港および大阪国際空港の運営)

本社	大阪府泉佐野市泉州空港北1番地 大阪市西区西本町一丁目4番1号 (登記上)	株主	オリックス株式会社 40%、 ヴァンシ・エアポート 40%、 その他の出資者 20% ¹
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	関西国際空港および大阪国際空港の運営業務、管理受託業務等		

関西エアポート神戸株式会社 (神戸空港の運営)

本社	兵庫県神戸市中央区神戸空港1番	株主	関西エアポート株式会社 100%
代表者	代表取締役社長 CEO 山谷 佳之 代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ		
事業内容	神戸空港の運営、維持管理業務等		



オリックスグループについて

1964年に設立されたオリックスグループは、法人金融、産業/ICT機器、環境エネルギー、自動車関連、不動産関連、事業投資・コンセッション、銀行、生命保険など、多角的に事業を展開する企業グループです。現在は、世界約30カ国・地域において、約36,000人の役職員により事業を展開しています。

オリックスグループの社会における存在意義は、「世の中がよりよい方向に進むきっかけとなる、“未来をひらくインパクト”をもたらすこと」です。このPurposeを軸に、グローバルで一体となり、社会に貢献してまいります。

詳細は <https://www.orix.co.jp/grp/> をご覧ください。



世界有数の空港運営事業者であるヴァンシ・エアポートは、14カ国において70以上の空港を運営しています。総合インテグレーターとしてのノウハウを駆使して空港の開発、資金調達、建設、運営を行うとともに、その投資能力と専門知識を活かした空港運営の最適化、施設改修、環境経営推進に取り組んでいます。

ネットワーク全体で2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロ (スコープ1および2) にすることを目標に掲げ、ステークホルダーの取り組みをサポートするため、2016年から他の空港運営事業者に先駆けて国際的な環境戦略を展開しています。

詳細は www.vinci-airports.com をご覧ください。

¹ 株式会社アシックス、岩谷産業株式会社、大阪瓦斯株式会社、株式会社大林組、オムロン株式会社、関西電力株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社、京阪ホールディングス株式会社、サントリーホールディングス株式会社、株式会社 JTB、積水ハウス株式会社、ダイキン工業株式会社、大和ハウス工業株式会社、株式会社竹中工務店、株式会社 NANKAI、NTT 西日本株式会社、パナソニックホールディングス株式会社、阪急阪神ホールディングス株式会社、レンゴー株式会社、株式会社池田泉州銀行、株式会社紀陽銀行、株式会社京都銀行、株式会社滋賀銀行、株式会社南都銀行、日本生命保険相互会社、株式会社みずほ銀行、三井住友信託銀行株式会社、株式会社三菱UFJ銀行、株式会社りそな銀行、株式会社民間資金等活用事業推進機構

2025年度 期末連結決算

2026.6.12



Shaping a New Journey



アジェンダ



2025年度 期末連結決算の概要



営業収益分析



関西エアポートグループ

10年間の経営成績と旅客動向



参考





2025年度 期末連結決算の概要

国際線旅客増や万博効果などが牽引し増収増益

【単位：億円】

1. 国際線旅客は、インバウンドの増加や神戸空港の国際線就航開始により旅客数が増加し、過去最高

2. 国際線旅客の増加に伴う増収に加え、万博効果等もあり、営業収益は前年度と比べ増収

3. この結果、営業利益、経常利益、当期純利益は、いずれも増益

	2024.4-2025.3	2025.4-2026.3	増減	%
営業収益	2,454	2,713	+259	+11%
EBITDA	1,092	1,160	+68	+6%
営業利益	646	696	+50	+8%
経常利益	540	589	+49	+9%
当期純利益*	368	402	+34	+9%

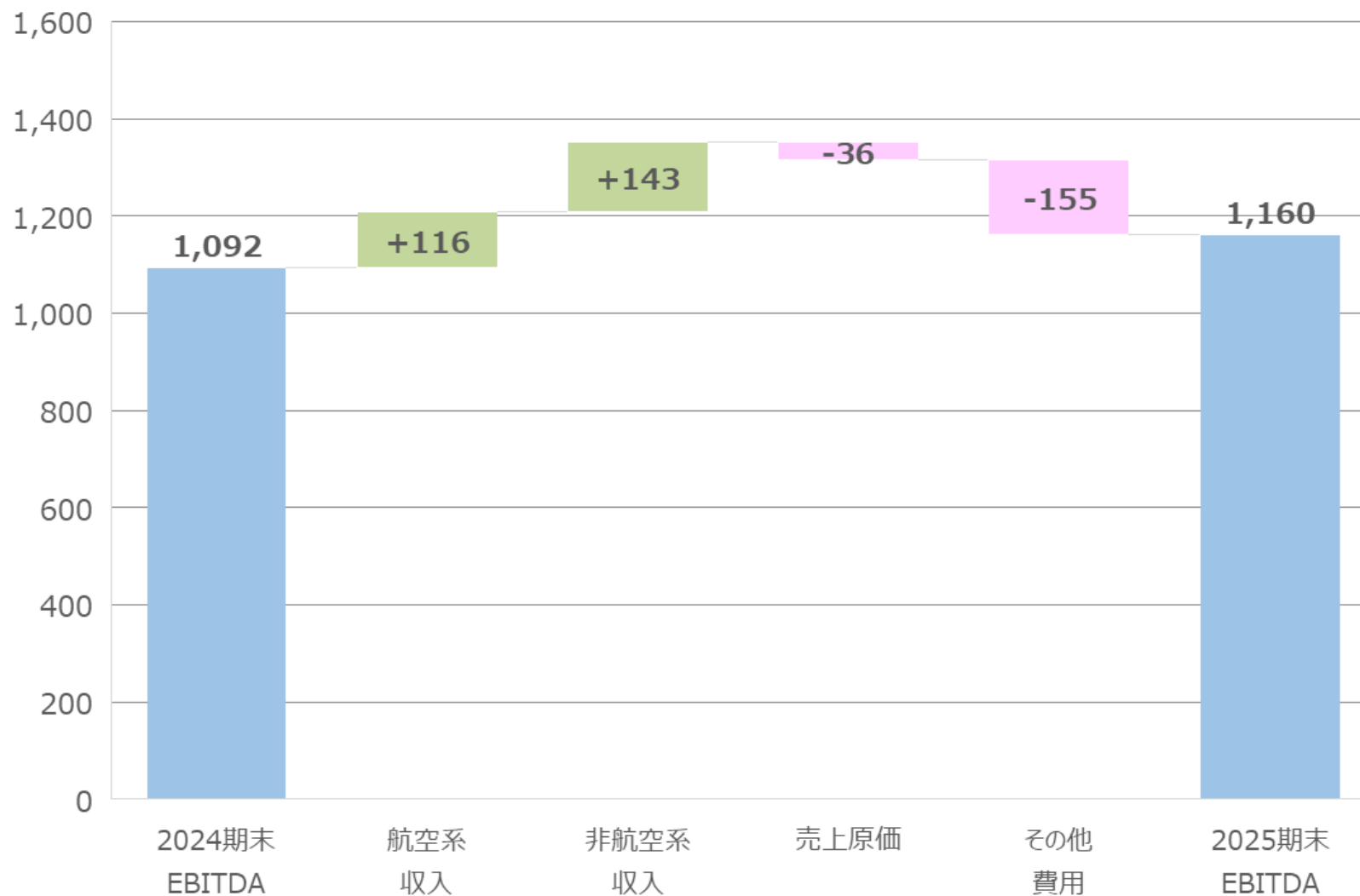
経営成績

【単位：億円】

	2024.4-2025.3	2025.4-2026.3	増減	%
営業収益	2,454	2,713	259	+11%
航空系	983	1,099	116	+12%
非航空系	1,471	1,614	143	+10%
営業費用（減価償却費除く）	(1,362)	(1,553)	(191)	+14%
EBITDA	1,092	1,160	68	+6%
減価償却費	(446)	(464)	(18)	+4%
営業利益	646	696	50	+8%
営業外損益	(107)	(107)	(1)	+1%
経常利益	540	589	49	+9%
特別損益	(13)	(13)	0	+2%
法人税等、非支配株主帰属損益	(158)	(174)	(15)	+10%
当期純利益*	368	402	34	+9%

EBITDA（前年比）

【単位：億円】



バランスシート

【単位：億円】

公共施設等
運営権等

公共施設等
運営権に係る負債等

	2025.3.31現在	2026.3.31現在	増減
流動資産	1,540	1,683	143
うち 現金及び預金	1,168	1,337	169
固定資産	14,424	14,024	(399)
資産合計	15,964	15,707	(256)
流動負債	907	764	(142)
固定負債	14,252	13,857	(395)
負債合計	15,159	14,621	(538)
株主資本	769	1,045	277
その他の包括利益累計額	14	18	3
非支配株主持分	21	22	1
純資産合計	804	1,086	281
負債・純資産合計	15,964	15,707	(256)
【参考】			
有利子負債残高	2,000	1,821	(179)



營業收益分析

航空系：3空港計発着回数・旅客数ともに年度として過去最高を記録

→ **3空港合計の発着回数は38.1万回（2024年度比103%）と年度として過去最高を記録。3空港合計旅客数も5,401万人（106%）と、同様に過去最高を記録。**

→ 国際線発着回数・旅客数

関西国際空港国際線の発着回数は162,612回で、前年度比107%と、年度として過去最高を記録。

関西国際空港の国際線旅客数は、秋以降の外交問題による中国方面の旅客数減少はあったものの、引き続き外国人旅客数の成長に牽引され、国際線旅客数全体で2,709万人と、同様に過去最高を記録。

また、2025年4月より国際線チャーター便が就航した神戸空港における国際線旅客数は53万人で、神戸空港の国際線旅客数も含めた全体では2,762万人、前年度比110%となった。

→ 国内線発着回数・旅客数

3空港における国内線の発着回数は215,304回で、前年度と同水準で推移。

3空港合計の国内線旅客数は2,639万人と、前年度比102%となった。

	2024年度	2025年度	前年度比
発着回数（万回）	36.9	38.1	+3%
関西国際空港（国際線）	15.1	16.3	+7%
関西国際空港（国内線）	4.8	4.4	-7%
大阪国際空港（国内線）	13.7	13.8	+1%
神戸空港（国際線）	-	0.4	-
神戸空港（国内線）	3.3	3.3	0%
航空旅客数（万人）	5,086	5,401	+6%
関西国際空港	3,180	3,355	+6%
国際線	2,508	2,709	+8%
日本人旅客	514	580	+13%
外国人旅客	1,983	2,121	+7%
国内線	672	646	-4%
大阪国際空港	1,545	1,629	+5%
神戸空港	361	417	+16%
国際線	-	53	-
日本人旅客	-	9	-
外国人旅客	-	44	-
国内線	361	364	+1%
3空港国際線（万人）	2,508	2,762	+10%
3空港国内線（万人）	2,578	2,639	+2%

航空系：2026年夏期スケジュール 国際線旅客便

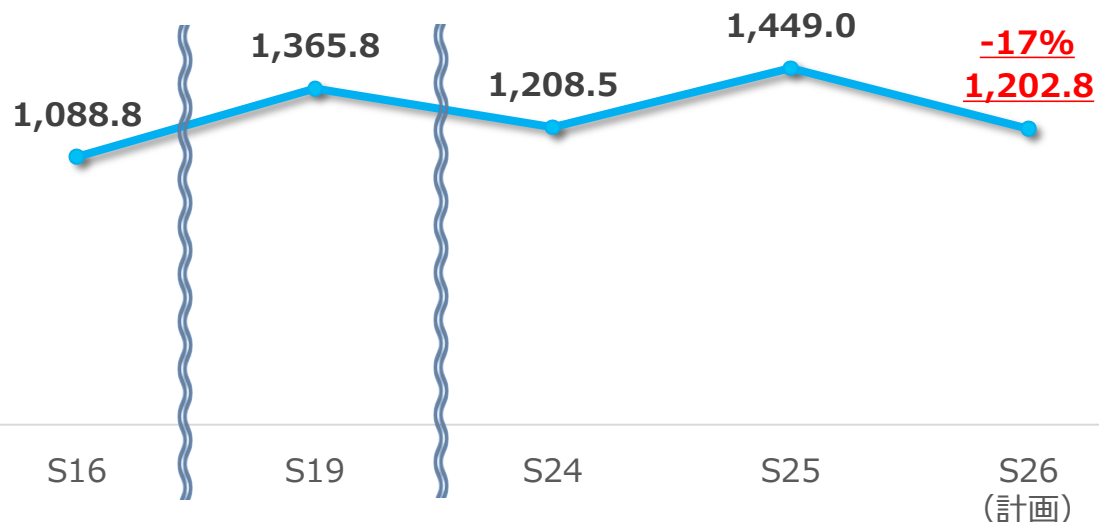
・夏期スケジュール期間中における就航航空会社および都市数
 ・数値は2026年夏期スケジュール期間平均週間便数

中国路線は前年比70%減となる一方、その他の地域では力強い成長が見込まれる。

S26 : ✈️ **65** 社 🌐 **48** 地点
 S25 : ✈️ **66** 社 🌐 **69** 地点
 S24 : ✈️ **63** 社 🌐 **56** 地点

✈️ **1,202.8** 便/週 **-17%** / **0%**
 vs S25 vs S24

国際線旅客便 夏期スケジュール (週平均便数)

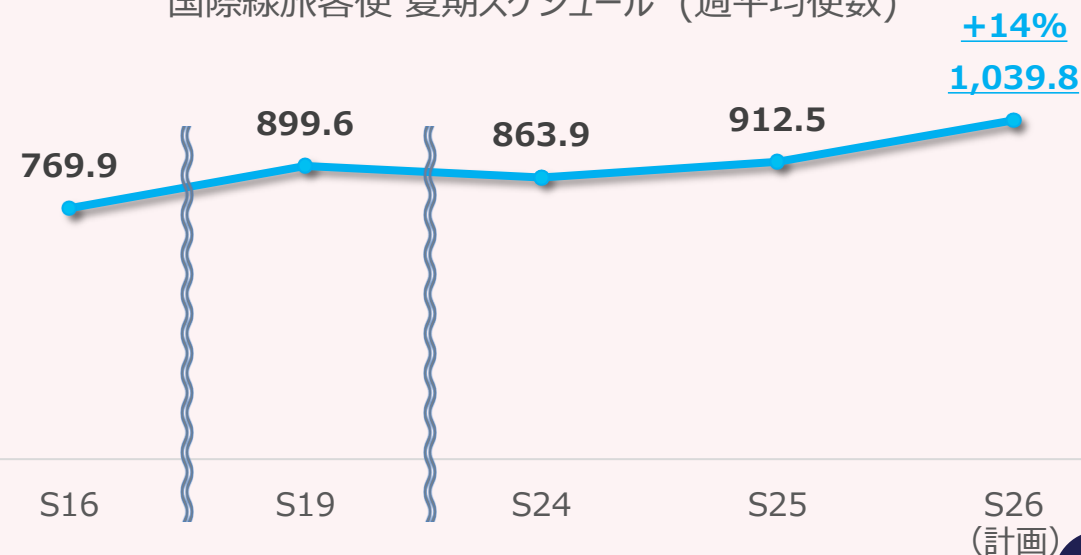


*中国路線除く

S26 : ✈️ **50** 社 🌐 **36** 地点
 S25 : ✈️ **47** 社 🌐 **36** 地点
 S24 : ✈️ **48** 社 🌐 **35** 地点

✈️ **1,039.8** 便/週 **+14%** / **+20%**
 vs S25 vs S24

国際線旅客便 夏期スケジュール (週平均便数)



航空系：KIX 貨物便の概況

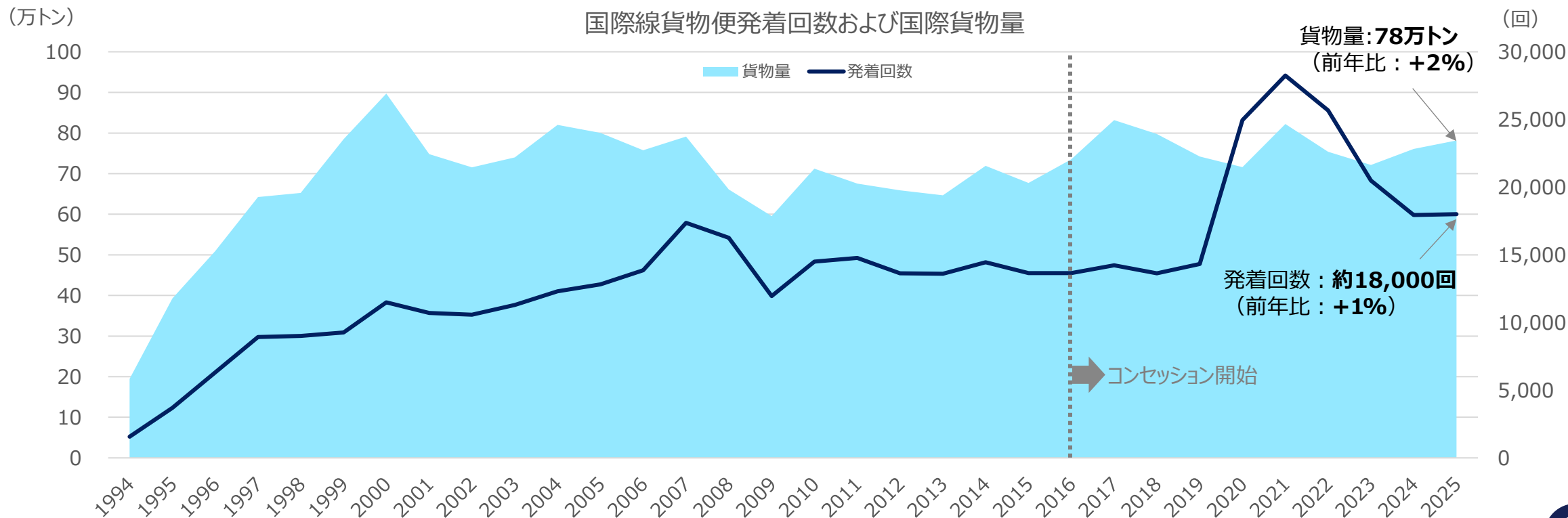
- 便数はコロナ禍前水準を上回り、安定した状況

市場を取り巻く環境

✦ 国際貨物取扱量は、EC需要の拡大に支えられ増加傾向

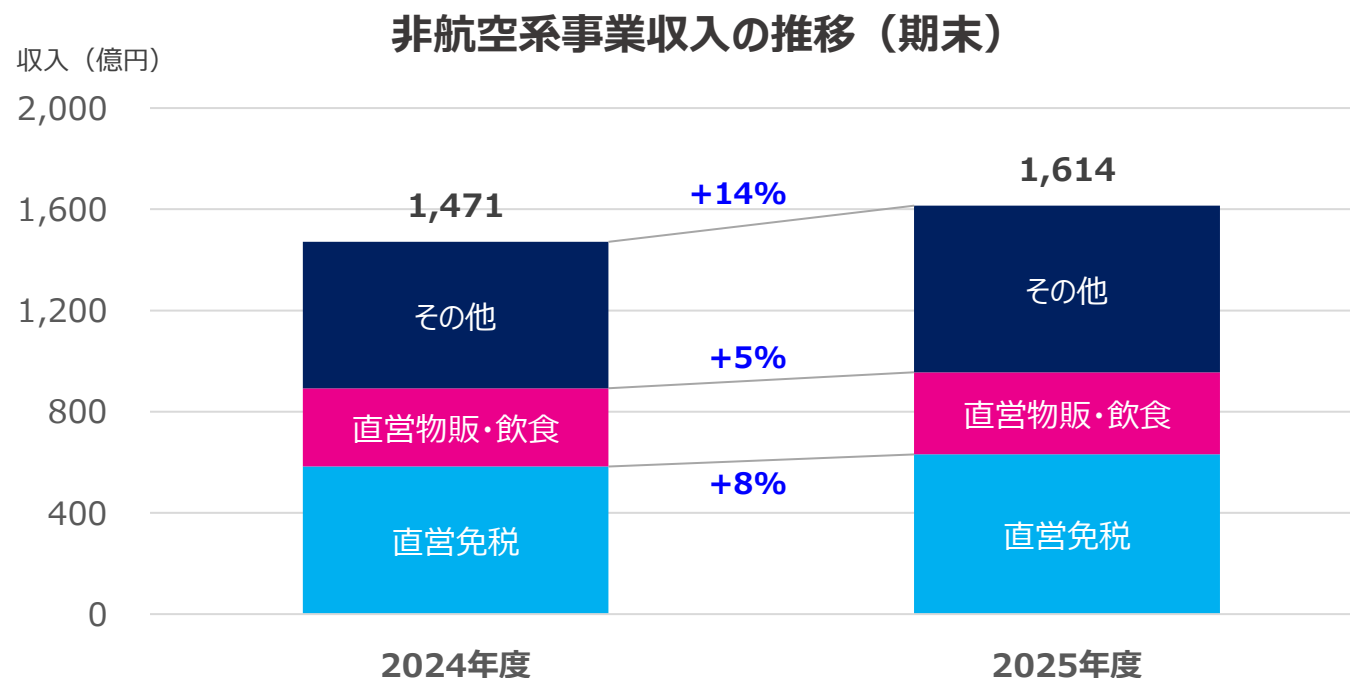
主なトピックス

✦ スプリング・ジャパンは、3月24日より新千歳路線においてヤマトグループの国内貨物便の運航を開始



非航空系：インバウンド需要の拡大および国際線商業エリアの好調により、収入は過去最高を更新

- 2025年度の非航空系事業収入は、2024年度実績を上回り、過去最高となる1,614億円を記録
- 万博開催等を背景としたインバウンド需要の拡大により、特に年度前半は高い伸びを実現
- 年度後半は中国方面旅客減少の影響が見られたものの、その他方面の需要拡大により、直営・テナントともに底堅く推移し、店舗収入は通期で増収

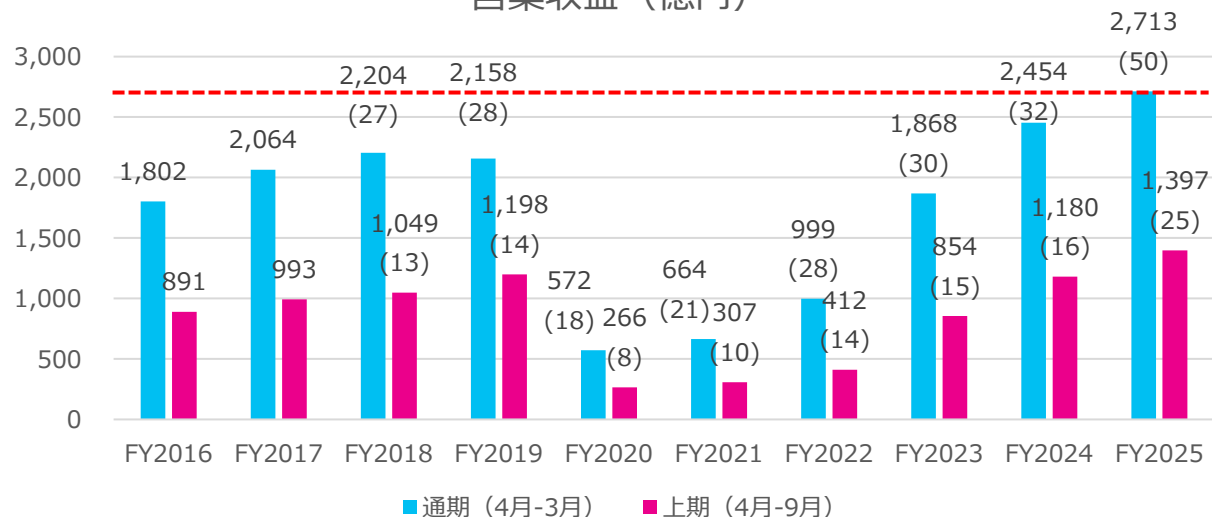




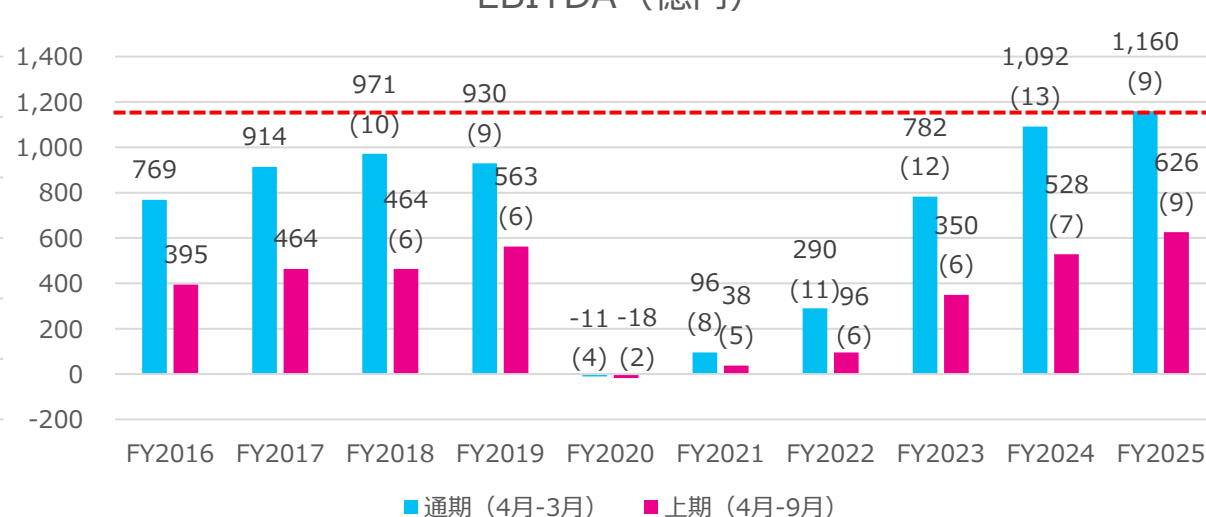
関西エアポートグループ 10年間の経営成績と旅客動向

決算成績の推移 (2016-2025年度)

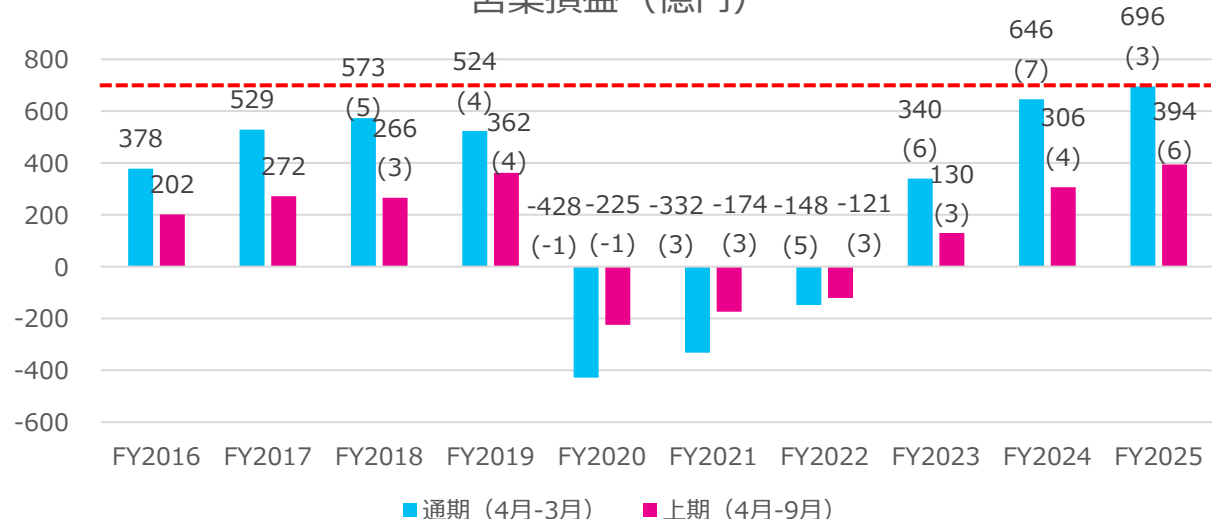
営業収益 (億円)



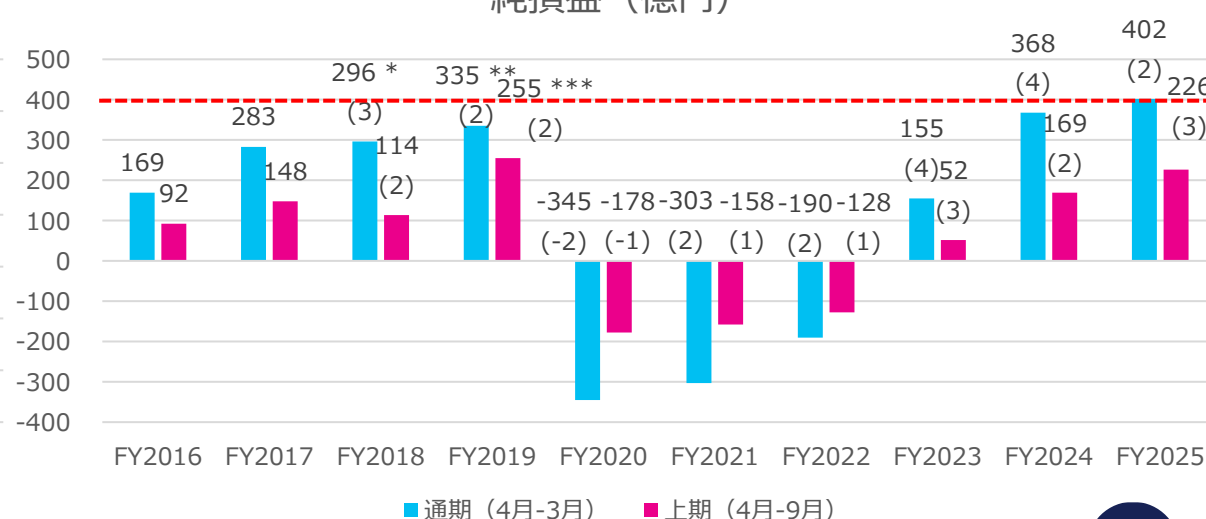
EBITDA (億円)



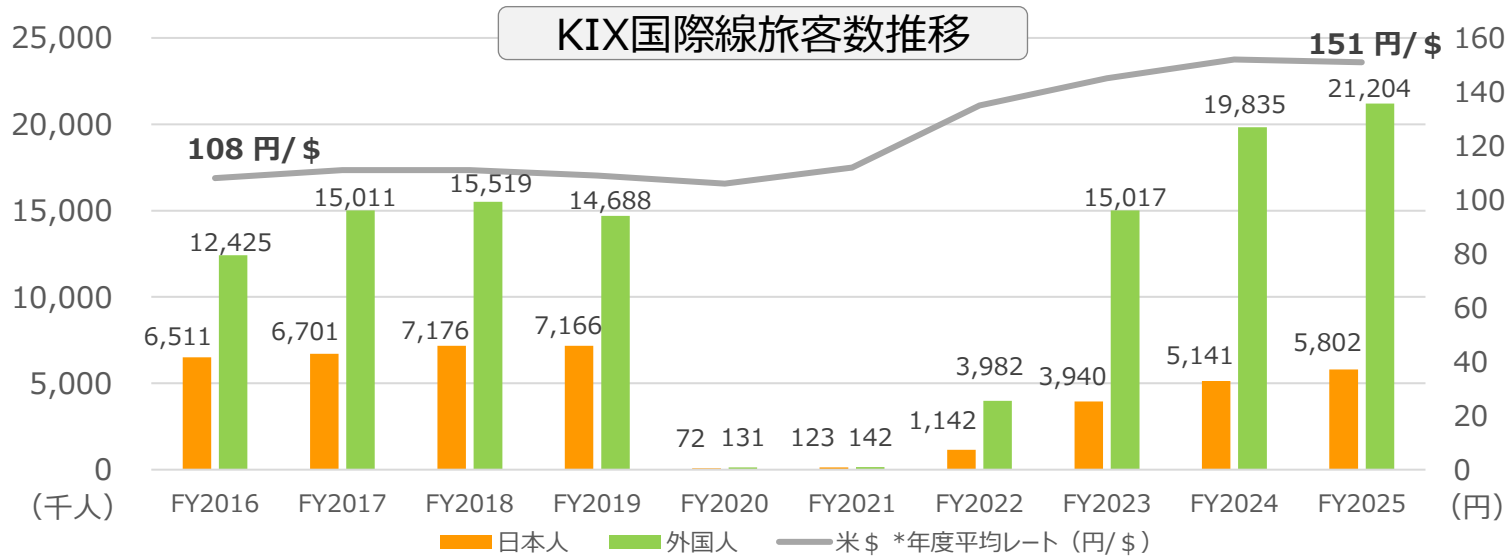
営業損益 (億円)



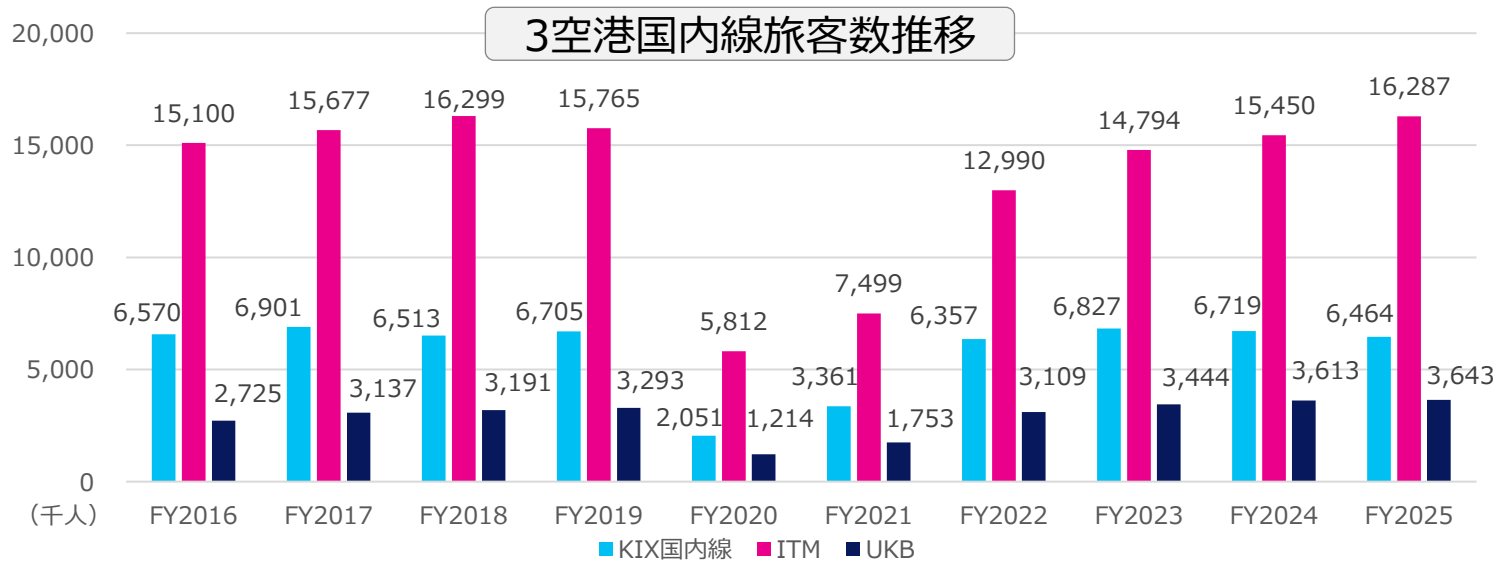
純損益 (億円)



10年間の旅客数推移と総括（2016-2025年度）



- 外国人旅客数（インバウンド）は、円安や訪日旅行人気の高まりにより、10年で1.7倍に増加
- 日本人旅客数（アウトバウンド）は、円安や国際情勢の影響により、10年で10%減少



- 3空港の国内線旅客数合計は、10年で増加
- 神戸空港は、運用時間延長、発着枠拡大により増加
- リモートワークなどの普及によるビジネス出張の減少、燃油高や人件費高騰による航空運賃の上昇など、航空業界を取り巻く環境の変化



参考

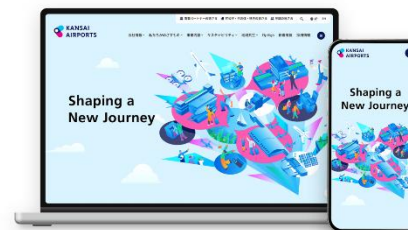
【参考】2025年度の主な取り組み

3空港

- ・関西3空港で空の日イベントの実施を発表（10/19, 10/25, 3/7）
- ・関西エアポート公式ウェブサイト进行全面リニューアル（10/30）
- ・関西3空港公式ウェブサイト进行全面リニューアル（1/28）
- ・関西3空港で「Expo Legacy Project」を始動（11/12）

KIX

- ・実用化された国産SAFの旅客便初供給イベントを実施（5/1）
- ・水素で走る燃料電池マイクロバスを導入（7/14）
- ・第2ターミナルビル国内線リノベーションの着工（8/1）
- ・T1 リノベーション 国際線出国エリアの新規出店店舗を発表（9/19）
- ・第19回KIX国際交流ドラゴンボート大会を開催（10/5）
- ・KIX CULTURE GATE Project 第3弾（10/29）
- ・大阪・関西万博のEVシャトルバスを関西国際空港内で活用（11/6）
- ・国際貨物地区改修プロジェクト
～Cargo Next→次の30年を動かす。～（12/17）
- ・ランプエリアに女性従業員専用休憩室を新設（12/23）
- ・国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰を受賞（3/19）
- ・第2ターミナル（国内線）リノベーション オープン（4/1）
- ・第1ターミナル 国際線出国エリアに新クレジットカードラウンジをオープン（4/1）



関西エアポート公式ウェブサイト进行全面リニューアル



関西3空港公式ウェブサイト进行全面リニューアル



実用化された国産SAFが旅客便に初供給



関西国際空港T1リノベーション（Phase4）
国際線出国エリアの新規出店店舗が決定！



国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰



第2ターミナル（国内線）リノベーション オープン

【参考】2025年度の主な取り組み

ITAMI

- ・ロボット芝刈機の本格運用を開始（4/1）
- ・大阪空港ホテル 反転フラップ式案内表示機を展示（4/7）
- ・「ITAMIランウェイウォーク」を開催（7/12）
- ・「ULTRAMAN TO THE WORLD」を開催（8/8-8/25）
- ・JAL×バンダイナムコ 子どもたちと「未来」を考える特別企画を実施（8/30）
- ・「ITAMIそらスポキッズパーク」を開催（11/29）
- ・「小学生親子空港見学バスツアー」を開催（3/27-3/28）



神戸空港 第2ターミナル供用開始、および国際線チャーター便初便就航！



関西国際空港・大阪国際空港に
ロボット芝刈機を導入



神戸空港 第1ターミナル3階フードコート
「神戸ソラもぐ」をオープン



「ITAMIランウェイウォーク」を開催



神戸空港 開港20周年記念イベント

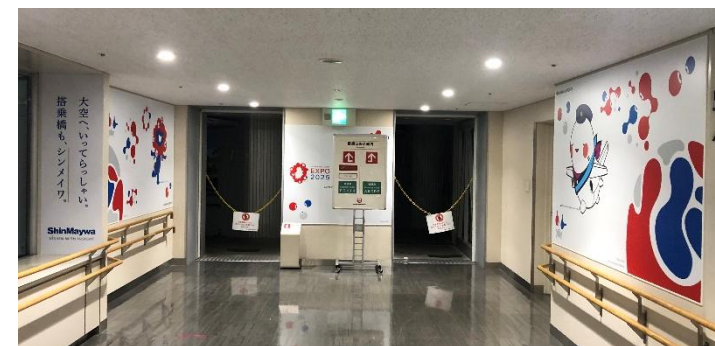
KOBE

- ・第1ターミナル 3階フードコート「神戸ソラもぐ」をオープン（4/10）
- ・第2ターミナル供用開始、および国際線チャーター便初便就（4/18）
- ・夏休み・早朝親子滑走路ウォークを開催（7/19）
- ・滑走路ナイトウォークツアーを開催（8/22）
- ・国際線チャーター便就航特別記念イベント「神戸空港ラン」を開催（8/30）
- ・“旅博Lite 2025 in 神戸空港”を開催（11/30）
- ・開港20周年記念イベントを開催（2/16）

【参考】Expo Legacy Project at airport

大阪・関西万博の機運醸成

弊社独自の万博ビジュアル「歩こう、大阪・関西。」の制作や万博関連の館内装飾や万博ボランティアブース設置に協力



Expo Legacy

海外との友好の証や万博の思い出の記録として、多くの方に楽しみ、親しんでいただくプロジェクトを新たに推進中
⇒ 合計**13点**の国内・海外パビリオンで展示されていた作品等をKIX・ITAMI・KOBEに設置



英国パビリオン



カナダパビリオン



フランスパビリオン



中国パビリオン